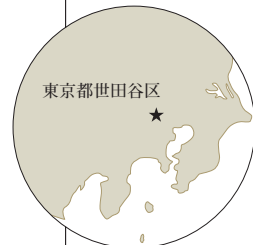


ケアのある
風景

株式会社CLOVER



デイサービス クローバー成城学園

「ここに通いたい」と
思ってもらえる
場所づくりに注力

まるでカフェのような建物に、
一人ひとりに合ったケアの提供。

「デイサービスクローバー成城学園」には、
「介護施設らしさ」がどこにもない。

だからこそ訪れる人も働く人も、
笑顔で過ごせるのかもしれない。

撮影／下山展弘



一人ひとりに合ったケアのために、会話を大切にしている



家でつくっていた料理を、スタッフに教えることも

お世話する・ される関係 ではなく ともに支えて 感謝し合える 関係に

小田急線祖師ヶ谷大蔵駅から、さまざまな店舗の前を通って着いたのが、株式会社CLOVERが経営する「デイサービスクローバー成城学園」だ。

その外観を見ただけでは、デイサービスだと思える人はいないだろう。四つ葉のクローバーのロゴマークや、観葉植物が飾られた入口は、おしゃれなカフェと間違えてしまいそうだ。実際、道行く人が珍しそうに中の様子を覗く姿も見られた。

入ってみると、白を基調としたエントランスが目に見え、そこには最新の調理機器が完備された開放的で立派なキッチンがあり、利用者が料理の準備をしていた。内装にはコンセプトがあり、「デイサービスクローバー成城学園」は「カフェ×本箱」がコンセプトだ。それを反映しているように、室内にはあち

らこちらに本が並べられている。白やグレーのソファに腰掛け、利用者は編み物をしたり、スタッフと会話を楽しんだりと寛いでいる。

「デイサービスクローバー成城学園」に通っている利用者のなかには、大勢で一緒に活動するよりも思い思いに過ごしたいと望む人が多いという。そこで、同施設では料理や編み物、買い物などさまざまなことに挑戦できるようにしている。

「どの活動がしたいのか、利用者に決めてもらって



巨大なプロジェクターではテレビも見られるほか、ワークショップでの使用も考えているという



テーブルで作業したり、ソファでくつろいだりと思い思いに過ごしていた



スタッフも一緒に食事。会話が弾む



“本箱”のコンセプトどおり、施設内のあちこちに本が飾られている

ます。実際、「料理がやりたかった」と楽しみに来られる方もいます」と、管理者の五十嵐歩惟さんは語る。さらに、利用者家族にも「自分が行きたい」「親を行かせたい」と思ってもらえるよう、ハードにもケアの内容にもこだわり続けているそうだ。ケアに関して言えば「デイサービススクローバー成城学園」のコンセプトは、「みんなが笑顔でいることが幸せ」。それが、利用者のしたいことを制限しないケアの実践につながっている。つまり、利用者のしたいことを尊重することが、笑顔につながると考えているわけだ。

「利用者からありがとうと言われるだけでなく、スタッフからも『教えてくれてありがとう』と、利用者に感謝を伝えることを大切にしています」と、五十嵐さん。その言葉のとおり、「デイサービススクローバー成城学園」ではお世話をする側・される側の関係性ではなく、互いに支え合う関係性が自然と生まれている。たとえば、料理もスタッフが教えて、利用者がつくるといった一方的なやり方ではなく、利用者が昔つくっていた料理をスタッフに教えたりすることもあるという。これは、デイサービスを「生活の延長線」と捉えているから。日常生活では、お世話する・される関係になることはそうそうない。これまでの生活と遜色なく過ごしてもらうため、あまり手は出さず自分の力で成し遂げられるよう、「待つ」ことを大切にしている。本来なら自力でできることでも、スタッフが手を出してしまうと、利用者の意欲をそぐことにもなりかねない。そうではなく、できるだけ待つことが利用者本人のためにもなり、達成感にもつながると考えているという。



スタッフと一緒に買い物に行くことも



飲み物もスタッフが用意するのではなく、利用者自身で選んでもらうようにしている



管理本部長の野口潔さん



管理者の五十嵐歩惟さん



代表取締役の香丸俊幸さん



「デイサービスクローバー学芸大学」は、放課後等デイサービスが併設されており、子どもたちと交流できる空間となっている



「デイサービスクローバー麻布十番」の内装は「北欧」がコンセプト。家具のカラフルさが目を引く

株式会社CLOVER

デイサービス

クローバー成城学園

●東京都世田谷区祖師谷3-6-14
グランベル祖師谷

☎day-clover.com/

2021年7月にオープン。内装のコンセプトは「カフェ×本箱」。1日型のデイサービスで、20時まで延長も可能。また、入ってすぐオープンキッチンがあったり、吹き抜けがあったりと明るい印象を受ける内装となっている。



地域ごとに

コンセプトを

変えることで

その地域で

必要なケアを

考えることになる

株式会社CLOVERでは現在、東京都・千葉県でデイサービスを展開している。内装やケアのコンセプトは、事業所ごとで異なるという。たとえば、本八幡のデイの内装のコンセプトはリゾートホテル、参宮橋のデイは元料亭を改装した和モダンとなっている。また、ケアの内容もそれぞれ違うそうなので、個別ケアを重視する事業所もあれば、泊りや延長サービスなどを充実させているデイもある。

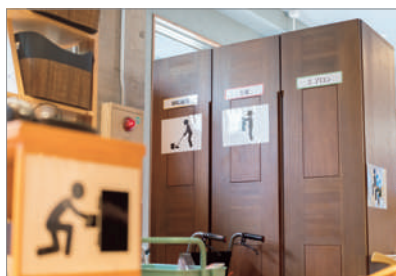
「各事業所で一律のケアを行うよりも、その地域の特性に合ったケアを提供したいと考えています。そのため、ケアのコンセプトは、各施設長やスタッフが決めていきます」と話すのは、株式会社CLOVERの代表取締役である香丸俊幸さん。根底には、「ケアのかたちがいろいろあっていいのでいろいろあっていいのは」という考えがある。

また、同社はスタッフの提案が現場に反映されやすい体制づくりに注力している。たとえば、「デイサービスクローバー成城学園」ではスタッフの発案でその人らしく生きることを支えるケアと評される「モンテッソーリケア」を一部に取り入れている。活動内容だけでなく飲み物を自分で選べる仕組みも、その一つだ。

「会社から社員に対して『これはダメ』と制限するこ

とはありません。あくまで決定権を現場にもたせるようにしています」と、同社管理本部長の野口潔さんは語る。

ケアのかたちがさまざまなように、スタッフの働き方もさまざまなという。同社では副業を全面的に許可しており、スタッフのなかには書道家や格闘家もいるのだとか。また、フルタイムで働くスタッフもいれば、自分の生活に合わせて勤務時間を変える



いたるところにヒクトグラムが貼ってあり、「どこに何があるか」がわかりやすくなっている。



利用者が座りやすい高さに工夫されています

スタッフもいるなど、勤務体系も自由になっている。「今後、『デイサービスクローバー成城学園』では、利用者がつくった料理をデリカテッセンのように販売したり、施設内でワークショップを行ったりといった活動を考えています。たんなる介護施設ではなく、さまざまな世代の人たちにも気兼ねなく足を運んでもらえる場所になれば、地域とのつながりも生まれやすくなると思います」と、五十嵐さんは展望を語る。